

## 1. 点要素チェック

メニュー[チェック]-[点要素チェック]に「近傍の3次元の等高線との標高差」を追加しました。

点要素チェック

対象

すべての点(E5)

分類コードで指定

内容

リストアップ

同一座標(XY)

同一分類コードならば削除する(XY)

同一座標(XYZ)

同一分類コードならば削除する

標高値が0.0の3次元点要素

範囲外の標高値

最高標高値  m以上

最低標高値  m以下

TINからの高さ

標高差  m以上

近傍の3次元の面・線との標高差

近傍の3次元の面・線との距離  m以下

近傍の3次元の等高線との標高差 ←

近傍の3次元の等高線との距離  m以下

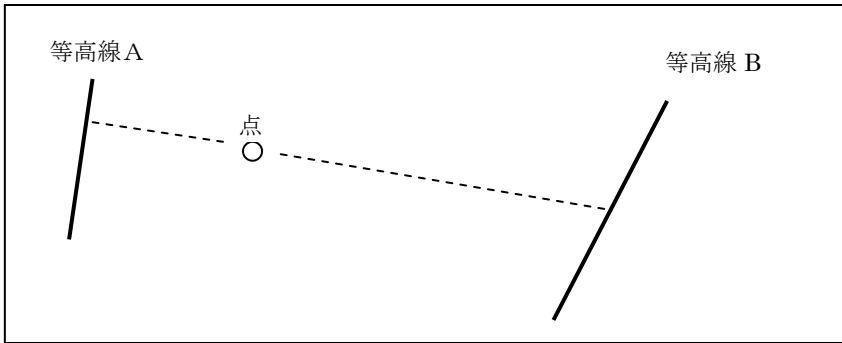
OKリストCSV  |

オプション

レポートパネル出力

### 【近傍の3次元の面・線との標高差】

対象で指定された点(E5)について、近くの等高線などの3次元の面(E1)と線(E2)との標高差を調べ、違いが大きい点をリストアップします。各点について次の処理をおこないます。参照する3次元の面(E1)線(E2)を等高線とします。



- ① ダイアログで指定された距離内にて最も近い等高線を探します(例: 等高線 A)。ない場合は処理終了。
- ② その正反対側に伸ばした線と交差する等高線を探します(例: 等高線 B)。ない場合は処理終了。
- ③ 点の標高値が等高線 A と等高線 B の標高値の間ならば、問題なしとして処理終了。
- ④ 等高線 A と B の標高値が同じで、点の標高値との差が、等高線の標高値の間隔より小さい場合は、山頂や稜線の凸部、あるいは凹地や谷の凹部として処理終了。
- ⑤ 点と等高線 A あるいは等高線 B との間に、等高線があるべきと判定される場合は、標高差の大きい順からチェックリストにリストアップします。

表示項目と項目数	OK
<input checked="" type="radio"/> すべて 212	
<input type="radio"/> OK以外 212	
<input type="radio"/> OKのみ 0	

(1)0	2.dm 標高差=81.360m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.640 < 64.0、62.0(等高線などのZ)
(2)0	2.dm 標高差=59.380m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.620 < 62.0、60.0(等高線などのZ)
(3)0	1.dm 標高差=59.360m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.640 < 64.0、60.0(等高線などのZ)
(4)0	1.dm 標高差=53.450m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.550 < 54.0、60.0(等高線などのZ)
(5)0	2.dm 標高差=47.520m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.480 < 48.0、50.0(等高線などのZ)
(6)0	1.dm 標高差=47.520m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.480 < 48.0、50.0(等高線などのZ)
(7)0	1.dm 標高差=47.500m Z値が要チェック(両方の等高線の範囲外) Z=0.500 < 50.0、48.0(等高線などのZ)

OKリストCSV保存 全削除

ガイド レポート チェックリスト1 チェックリスト2 確認リスト 断面

また、レポートパネルにチェックした点数と、近くに等高線などがなくてチェックしなかった点数を表示します。

近傍の3次元の面・線との標高差 対象の点数=1531
近傍の3次元の面・線との標高差 近傍に等高線等がない点数=78
近傍の3次元の面・線との標高差 近傍に等高線等が1本の点数=551
近傍の3次元の面・線との標高差 チェックした点数=902

ガイド レポート チェックリスト1 チェックリスト2 確認リスト

#### 【近傍の3次元の等高線との標高差】

上記の「近傍の3次元の面・線との標高差」はすべての3次元の面・線要素を参照しますが、この「近傍の3次元の等高線との標高差」は3次元の等高線(分類コード=7101~7108)のみを参照します。